

GPS/JIPS 安全性要約書

物質名

アクリル酸 2-ヒドロキシエチル

物質の概要

エステル臭があり、可燃性のある無色透明な液体。

強い急性経皮毒性や臓器毒性、眼に対する腐蝕性、皮膚に対する感作性がある。また、水生生物に対して非常に強い急性毒性がある。

一般的用途として、熱硬化性塗料・接着剤原料、合成樹脂の改質剤、繊維加工助剤などがある。

(出典：NITE-CHRIP 一般情報-用途

https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/dt/html/GI_10_001/GI_10_001_818-61-1.html)

当社のアクリル酸 2-ヒドロキシエチルは、主として熱硬化性塗料、接着剤、繊維処理剤、コポリマーの改質剤、潤滑油添加剤として使用されている。

物質の情報

一般名	アクリル酸 2-ヒドロキシエチル
商品名	アクリル酸 2-ヒドロキシエチル
別名	2-ヒドロキシエチル=アクリラート、モノアクリル酸エチレングリコール、プロペン酸 2-ヒドロキシエチルエステル
化学名	アクリル酸 2-ヒドロキシエチル
CAS 番号	818-61-1
その他の番号	官報公示整理番号（化審法、安衛法） (2)-995 EC 番号 212-454-9
分子式	$C_5H_8O_3$
構造式	

用途

当社のアクリル酸 2-ヒドロキシエチルは、主として熱硬化性塗料、接着剤、繊維処理剤、コポリマーの改質剤、潤滑油添加剤として使用されている。

物理化学的特性

エステル臭があり、可燃性のある無色透明な液体。

外観（物理的状态）	液体
色	無色透明
臭気	エステル臭

GPS/JIPS 安全性要約書

pH	3.3(20°C、1mol/L 水溶液)
融点/凝固点	≤-10°C
沸点	82°C (667 Pa)
引火点	117°C (クリーブランド開放式)
自然発火温度 (発火点)	データなし
燃焼限界—上限 (%)	12.9 vol%
燃焼限界—下限 (%)	1.8 vol%
蒸気圧	0.06974 hPa (25°C)
蒸気密度 (Air=1)	データなし
比重	1.105 (25°C)
溶解度 (水)	任意に溶解する
溶解度 (その他)	データなし
n-オクタノール/水 分配係数	log Pow = -0.21
分解温度	データなし
その他のデータ	SAPT(自己加速重合温度): 50°C<

ヒト健康影響安全性評価

強い急性経皮毒性や臓器毒性、眼に対する腐蝕性、皮膚に対する感作性がある。

危険有害性項目	GHSによる分類結果(注1) および評価コメント
急性毒性 (経口)	区分4 飲み込むと有害
急性毒性 (経皮)	区分2 皮膚に接触すると生命に危険
急性毒性 (吸入:ミスト)	区分4 吸入すると有害
皮膚腐食性/刺激性	区分2 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1 重篤な眼の損傷
呼吸器感作性/皮膚感作性	区分1 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	分類できない(注2)
発がん性	分類できない(注2)
生殖毒性	分類できない(注2)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分3 呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器)
誤えん有害性	分類できない(注2)

(注1) GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals) とは、世界的に統一されたルールに従って、化学品の危険有害性を分類し、表示するシステムのこと。

(注2) 分類できない; データがないあるいはデータ不足のため分類できないことを示す。

環境影響安全性評価

水生生物に対して非常に強い急性毒性がある。

危険有害性項目	GHSによる分類結果(注1) および評価コメント
水生環境有害性 短期 (急性)	区分1 水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性 長期 (慢性)	区分3 長期継続的影響により水生生物に有害

GPS/JIPS 安全性要約書

オゾン層への有害性	分類できない（注2）
-----------	------------

環境中の運命・挙動	
生分解性	生分解性良好。
生物蓄積性	生物蓄積性は低いと考えられる。
PBT/vPvB	PBT（難分解性で生物蓄積性と毒性を有する物質）/vPvB（極めて難分解性で高い生物蓄積性を有する物質）には該当しないと考えられる。

曝露

作業者曝露	当該物質は、閉鎖系プロセスで製造されるので、製造作業者への曝露の可能性は極めて限られる。 当該物質を原料とする熱硬化性塗料、接着剤、繊維処理剤、コポリマーの改質剤、潤滑油添加剤は、閉鎖系プロセスで製造されるので、これらの製造作業者への曝露の可能性も極めて限られる。
消費者曝露	当該物質は、一般消費者にて使用されることはない。
環境	当該物質は、閉鎖系プロセスで製造され使用されるので、環境への排出は極めて限られる。当該物質は環境へ放出された場合は、水中に分配されると考えられる。

推奨リスク管理措置

作業者曝露	技術的対策
	取り扱い時には、必ず適切な保護具を着用する。
	設備対策
	密閉された装置・機器、または局所排気装置を使用する。
	取扱い場所の近くに、眼の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。
	許容濃度
	日本産業衛生学会および ACGIH（米国産業衛生専門家会議）では本物質の許容濃度は設定していない。
	保護具
	呼吸器の保護具：防毒マスク 手の保護具：有機溶剤不浸透型保護手袋（静電気対策品が望ましい） 眼の保護具：保護眼鏡、ゴーグル、防災面 皮膚及び身体の保護具：有機溶剤不浸透型保護衣、保護靴（静電気対策品が望ましい）
	注意事項
静電気を帯電する恐れがある。静電気除去の対策（接地等）を行う。静電服、静電靴等を着用するなどして、人体帯電を防止する。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用する。 火花を発生させない工具を使用する。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。-禁煙 容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしない。 日光から遮断し、換気の良い場所で保管する。 タンクで貯蔵する場合は、40℃以下のできるだけ低い温度で貯蔵し、気相部の酸素濃度を7～21%になるように管理する。 混触危険物質（強酸化物、過酸化物）との接触を避ける。	
消費者曝露	当該物質は、一般消費者にて使用されることはない。
環境曝露	河川、水路、下水溝等への流出を防止する。
漏出時の緊急処置	付近の着火源となるものは、速やかに取り除く。

GPS/JIPS 安全性要約書

	<p>汚染区域から人を退避させ、保護具を着用した関係者以外の立入りを禁止する。 下水または水路への漏出をさせない。 悪臭・刺激臭が強いので、周辺の住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。 土のう、土砂などで囲み、帯電防止シートで覆い、(臭気の) 拡散防止に努める。 少量の場合は、5~10%カセイソーダ水溶液で加水分解、中和し、その後、水で洗浄する。廃水は適切な処置(焼却等)をする。 多量の場合は、土砂、土のう等で囲み、耐油性帯電防止シートで覆い、蒸気の発生をおさえながらドラム缶等の適当な容器に回収する。その後、少量の場合と同様な処置をする。</p>
--	--

法規制情報/分類・ラベル情報

法規制情報	
消防法	危険物・第4類引火性液体・第3石油類水溶性液体
毒劇法	毒物(2-ヒドロキシエチル=アクリラート及びこれを含有する製剤)
化管法	第1種指定化学物質(アクリル酸2-ヒドロキシエチル)
労働安全衛生法	強い変異原性が認められた化学物質(アクリル酸2-ヒドロキシエチル)
船舶安全法	毒物類
海洋汚染防止法	有害液体物質 Y 類物質(アクリル酸2-ヒドロキシエチル)
国連分類	クラス6. 1
国連番号	2810

GHS 分類		
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	区分2
	急性毒性(吸入: ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性/皮膚感作性	区分1 (皮膚感作性)
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1 (呼吸器)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	<p>飲み込むと有害 皮膚に接触すると生命に危険 吸入すると有害 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 呼吸器への刺激のおそれ 眠気またはめまいのおそれ 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害(呼吸器) 水生生物に非常に強い毒性 長期継続的影響により水生生物に有害</p>

GPS/JIPS 安全性要約書

<p>注意書き</p> <p>安全対策</p> <p>応急措置</p> <p>保 管</p> <p>廃 棄</p>	<p>粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 取扱い後はよく手や顔を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。 皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。 漏出物を回収すること。 施錠して保管すること。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 内容物／容器を産業廃棄物処理免許を持つ処理業者に委託して廃棄すること。</p>
---	--

連絡先

会社名 株式会社日本触媒
 住所 大阪市中央区高麗橋 4-1-1
 担当部門 レスポンシブル・ケア室 環境安全統括部
 電話番号/FAX 番号 06-6223-9240 / 06-6202-1766

発行・改訂日

改訂情報		
区分	年月日	改訂箇所
制定	2014年3月4日	初版
改訂	2018年11月15日	GHS分類、法規制等

その他の情報

国際機関、各国当局によるレビュー	
OECD	高生産量化学物質 (HPV chemicals) 点検計画 http://www.jetoc.or.jp/safe/doc/J818-61-1.pdf
厚生労働省・環境省	GHS関係各省による分類結果(平成25年度) (出典: NITE CHRIP 有害性・リスク評価情報 http://www.safe.nite.go.jp/ghs/13-mhlw-2013.html)
IPCS	国際化学物質安全性カード http://www.inchem.org/documents/icsc/icsc/eics1723.htm http://www.nihs.go.jp/ICSC/icssj-c/icss1723c.html
REACH	https://echa.europa.eu/substance-information/-/substanceinfo/100.011.322

GPS/JIPS 安全性要約書

免責条項

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み（GPS/JIPS=Japan Initiative of Product Stewardship）の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象物質に関する安全な取扱いに関する概要を提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を詳しく提供するものではありません。記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。